

提言「2020年代の県立高校の将来像について」のアウトライン

【提言の観点】 ※この資料は、提言の本書をお読みいただくためのナビゲーション(誘導)として作成したものです。詳細は提言の本書でご確認ください。

- 提言1 高校魅力化・活性化事業の成果をさらに発展させ、その成果を広く全県の高校で共有する
- 提言2 次期学習指導要領の改訂を踏まえて、多様な学びを追求できる主体的な学習を促す高校づくりを推進し、中学生の進学意欲を活性化させる
- 提言3 提言1、2の実現に必要な教育環境を整える

提言1 地域に根ざした小さな高校ならではの大きな教育効果を全県に広げ、全国に発信できる島根らしい教育の魅力化を進める。

1 地域協働スクールとなる。

- 地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」の実現に向けた取組を進める
- 「高校教育魅力化協議会」を持続的に発展させる仕組を構築する

2 地域資源を活用した特色ある教育課程を構築する。

- 小学校から高校まで連続性のある地域資源を活用した教材を開発・活用し、地域の自然・歴史・文化等の実体験や多様な人々との交流など対話的な学びを推進する
- 学校と地域をつなぐ人材を、地域側にも学校側にも養成・配置する

3 少人数のスケールメリットを生かしつつ学習内容の質や高校生活の多様性を保障する。

- 国への教員定数の改善要望、県単独での教員加配を行う
- ICT機器・ネットワークの整備による同時双方向型遠隔教育の導入、県内外の高校間の交流や単位互換など、多様な学びを工夫する

4 「学びの成果」の捉え方、示し方を新たに開発する。

- 知識・技能の修得のみに重きを置いた、いわゆる狭義の学力のみにとどまらない幅広い資質・能力を多面的に評価していく
- どのような資質・能力を、どのような手法や指標で捉え示すか等の調査研究を進め、学習評価や高校入学者選抜の評価に活用する

5 県外や国外からも広く生徒を募集する。

- 地元生にとっても県外生にとっても教育効果を生み出している「しまね留学」のさらなる改善に取り組み、広く生徒を募集する
- 地元市町村や移住定住機関、観光関係機関と連携しながら効果的・効率的な生徒募集の在り方を工夫する

6 島根らしい教育の魅力化を進める。

- 高校が地方創生・地域活性化の拠点となっている地域にとって、高校が必要不可欠な存在であり、覚悟を持って存続させるという堅固な認識を島根県と地元市町村の間で共有する
- 「しまね留学」の重要度は増していくと考えられ、その受け皿としての寄宿舎等の受入体制を県、市町村、高校が連携して整える

提言2 生徒の個性、適性、志向性に応じた多様な学びを追求できる、主体的学習を促す高校づくりを推進する。

1 「求める生徒像」の確立と入学者選抜制度改革

- 「育てたい生徒像」に基づき、教育課程を編成し、「求める生徒像」を明確にすることにより魅力化・特色化を図る
- 中学生や保護者、中学校に向けて、丁寧に分かりやすく情報発信する
- 「求める生徒像」を踏まえた入学者選抜方法の工夫を進める

2 特色ある学科・コースを設置して、主体的な学びを推進する。

- (1) 普通科高校 … SSH・SGH、島根の歴史や文化等を生かした探求的な学びなど、興味・関心や知識・技能を伸ばす教育課程を工夫する
- (2) 専門高校 … SPH や6次産業・AI技術に対応する学びなど地域産業・社会に求められる人材を育成する学校づくりを推進する
- (3) 総合学科高校 … 地域資源を活用した探求的な学びを実践できる系列や、スポーツや芸術系に特化した系列などを設置する
- (4) 定時制・通信制高校 … 学び直しを支える体制の強化に加え、日々の教育相談、進路サポート体制、生涯学習への対応など、学習面だけでなく、多様な生徒を支援していく
- (5) 中高一貫教育校 … 中等教育学校及び併設型については、島根県が推進している「教育の魅力化」の理念とはなじまない

3 生徒主体の高校づくりを推進する。

- 生徒会などを通して、生徒自身がより良い学校生活づくりに参画することで、自主的・実践的な態度を育てる
- 生徒自身が他者と連携・協働して主体的に課題解決に取り組むことは、主権者教育の流れとも符合する

4 学びのセーフティネットを構築する。

- 入学後の学科変更、転学などに柔軟に対応できる柔軟性・弾力性のある転科・転学システムを備える

5 インクルーシブ教育を推進する。

- 合理的配慮に基づく教育環境の整備や教職員研修、ケース会議など引き続き支援体制を充実させる

6 ICTを活用した授業改善を進める。

- ICTを存分に活用することのできる環境を早急に整備する
- 生徒自身がICT機器を積極的に利用し、膨大な情報を検索・選択・収集、整理・分析し、それをもとに人と協議し、その成果を共有・蓄積あるいは発信するスキルを育む
- 教員自身のICT活用スキル向上のため教員研修を充実させる

提言3 提言1、2の実現に向けた教育環境の整備

1 地域別の高校の在り方

- (1) 都市部(概ね松江市・出雲市エリア) … 大学との連携による探究型の学びに力点を置いた学校、学科の枠を超えた新しいタイプの学校など、都市部の特長を生かした特色ある学校づくりを行う。また、普通科系あるいは職業系専門学科や総合学科など特色ある学科の配置にも配慮する。高校教育の質の確保・向上を図り、魅力と特色ある学校づくりをしていくための望ましい学校規模は「1学年4学級以上8学級以内」とする
- (2) その他地域 … 学校規模にこだわることなく、地元市町村及び地域の参画を得ながら、協働して学校の魅力化・特色化を図っていく。その際、高校が必要不可欠な存在であり、覚悟を持って存続させるという堅固な認識を島根県と地元市町村の間で共有する
- (3) 松江市内通学区 … 各高校それぞれ独自の魅力と特色ある学校づくりに取り組み、それぞれの生徒の個性・適性・志向性に応じた豊かな学びの体制を整えた上で、通学区を廃止する
- (4) 地域外入学制限 … 「教育魅力化推進事業」の対象校は、地域外入学制限・県外入学制限の対象から除外する
- (5) 浜田市、江津市の県立高校の方向性
 - ア 先端的な科学技術やグローバル化に対応した探求的な学びを推進する普通科教育
 - イ 企業や大学等と連携し、6次産業、起業家教育にも力点を置いた専門教育

2 教員の多忙・多忙感の解消、教員の確保と育成

- 事務作業の支援スタッフ配置や、学校への依頼・指示の精選・適正化、部活動指導員などの外部人材を活用する
- 国に対して教員定数の拡充を働きかけるとともに、県独自の施策により教員定数を拡充する
- 大学等との連携・協働による養成・研修・評価等を通じた、一体的な教員養成システムを構築する